

用語集

旅客事業関連

座席キロ

(Available Seat-Kilometers)

航空業界において旅客輸送容量を示す。
総座席数×輸送距離(キロ)。

旅客キロ

(Revenue Passenger-Kilometers)

各有償旅客が搭乗し、飛行した距離の合計。有償旅客数×輸送距離(キロ)。

座席利用率(Load Factor)

総座席数に対し有償旅客の搭乗割合を示した数値で、座席の販売状況を計る指標。旅客キロ÷座席キロ。無償旅客数を含めない点で搭乗率とは異なる。

ユニットレベニュー(Unit Revenues)

レベニューマネジメントのパフォーマンスを定量的に測定する指標で、座席キロ当たりの収入単価。収入÷座席キロ＝座席利用率×イールド。

イールド(Yield)

旅客1人に対する1km(または1マイル)当たりの収入単価。

収入÷旅客キロによっても算出される。

レベニューマネジメント

ネットワーク戦略と運賃戦略をベースとし、最適な時期・価格で最適座席数を販売する「イールドマネジメント」を行うことにより、搭乗旅客構成のベストミックスを達成して収入の最大化を実現するマネジメント手法のこと。

ユニットコスト

航空業界における単位当たりコストの指標。1座席・1輸送距離(キロ)当たりのコストとして算出される。総コスト÷座席キロ。

客体ミックス

ビジネス、個人、旅行など、複数の客体による構成比、もしくはこの構成比をコントロールしていくこと。

貨物事業関連

貨物重量トン

輸送した貨物重量(トン)の合計。

輸送トンキロ

貨物輸送総量の単位。輸送貨物重量(トン)×輸送距離(キロ)。

フレイター

貨物専用機。キャビンスペース(旅客が搭乗する場所)の座席を取り払い、空洞状につくられた機内にコンテナおよびパレットが搭載される。

ベリースペース

旅客機におけるキャビンスペースの床下部分のことで、貨物スペースを指す。

その他航空運送全般

コードシェア

提携航空会社間でお互いの定期運航便に相手方の便名を付与して運航するもの。事実上は同一便の複数社による販売形態となる場合が多く、共同運航便とも呼ばれる。

ATI(Anti Trust Immunity)

市場原理の働く世界的な航空市場の実現を目指した国家間の「オープンスカイ協定」を前提として、この合意のある国を母国とする航空会社間の提携について、独占禁止法(反トラスト法)の適用を除外する措置を米国運輸省などから受けること。

ATIが認可されると、提携航空会社間で設立したジョイントベンチャー(JV)により、路線・ダイヤ計画をはじめ、運賃・商品の共同設定、マーケティング・販売戦略の連携などが可能となる。

ジョイントベンチャー(JV)

特定の事業を実行するために、複数の企業が新たな企業を設立し共同で経営に当たるもの。航空業界においてはATI認可の下に実施する戦略的提携のことを指す。

ネットワークキャリア

乗継需要も含めた路線ネットワークを基に、広範囲の市場を事業対象とする航空会社。長距離国際線をフルサービスで提供し、座席クラスも複数を提供するなどの特徴がある。LCC(Low Cost Carrier: 低コスト航空会社)との対比でも使われ、レガシーキャリア、フルサービスキャリアなどとも呼ばれる。

ハブ&スポーク方式

車輪の形になぞらえられるネットワーク形態で、車軸に当たるハブ空港から周辺のスポーク空港へ放射線状の路線網を構築するもの。小都市であるスポーク空港間の小さい需要を、大都市のハブ空港に結びつけることで、運航効率を上げることができる。

首都圏デュアルハブ

発着枠の拡張が計画されている羽田空港と成田空港の両首都圏空港をハブ空港とし、その周辺の空港をスポーク空港として、乗り継ぎの利便性を図るネットワーク体系。

羽田空港は国内線/国際線の乗り継ぎ、成田空港は国際線/国際線の乗り継ぎなど、羽田空港と成田空港、それぞれの特徴を活かしたネットワークが構築される。(ANAの経営戦略において使用している用語)